

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700031		
法人名	有限会社 さわやか門前		
事業所名	グループホーム 浜		
所在地	佐賀県鹿島市浜町乙2591-1		
自己評価作成日	平成25年4月7日	評価結果市町村受理日	平成25年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年5月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○一人一人がゆつくり、楽しく、穏やかに生活されるように、相手の気持ちを良く聴いて支援している</p> <p>○月に一度か二度のピクニック(のみの郷、東与賀町のシチメンソウ、嬉野桜ホテル、足湯、武雄ゆめタウン、庭木ダム)の桜、大村シュシュ、イチゴ狩り、肥前浜宿の散策、祐徳神社日本庭園など</p> <p>○地域の方との「認知症を知る会」を開催。</p> <p>○書作、映画、カラオケ、カルタ、計算ドリルなどの日中活動。</p> <p>○一月ごとの写真入りおたより。</p> <p>○祐徳民謡会やカラオケ同好会の方、浜小学校の皆さんとのレクを楽しまれる。</p> <p>○年に一回の落語会で地域の皆さんと共に楽しんでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>古くからある酒蔵通りに面した場所で、近隣には歴史ある建物や民家に囲まれている。静かな街並みの風景に深く溶け込み、和風の雰囲気落ち着いた感じがある。「防災訓練」「認知症を知る会」「ボランティア」など地域住民とも幅広く交流され、外出行事等の際にも馴染みの場所に寄り道するなど、常に入居者と向き合い、意向に沿った個別の対応を意識されているホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで職員の意識を統一し、実践に繋げている。	理念を掲示されていないが、代表者の思いなどを、毎月のミーティングで職員に伝え、意思を統一し実践につなげられている。	個々のスタッフがケアに疑問を感じた時、理念を基に振り返りや検討ができるよう、理念を共有できる環境づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣保班の方と月一回の溝掃除に参加している。隣近所の方より、野菜を頂いたり、いちご狩りをしたいちごをおみやげに配ったりした。	地域との交流に努め、地域清掃活動への参加や、行事等で地域の方を招き入れ、ホームへの出入りも多い。近所の方も犬の散歩の途中で立ち寄り、入居者とふれあったり、自然な形で日常的なつきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年浜と古枝地区の公民館を借り、地域包括支援センターと共に、「認知症を知る会」を開いている。(平成24年3月20日北船津公民館、3月17日上古枝公民館)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、老人会会長、民生委員、消防団、地域包括支援センターの方と、ホームでの状況を報告したり、今後の町作りの話しや避難訓練の話しや成年後見制度の話しなどを行っている。	2ヶ月1回定期的に開催している。自治会長以外にも班長の参加もあり、細かな情報交換は行われているが、議事録の作成がなく参加できない家族へ内容が伝わりにくい。	議事録を作成し、地域との繋がりや取り組み等の状況を、家族へ伝えることが望まれる。また、家族が会議に参加されることを促し、より多くの方と、ホームの取り組みについて意見交換ができることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護のかたが社会福祉協議会の安心サポートを利用され、ホームでのおたよりを持参したり、包括支援センターの方と共に、「認知症を知る会」の開催に向けて協力し合い、取り組んでいる。	地域包括支援センター等の合同研修会や、行政窓口への相談、行政からの訪問など関わりを多く持って協力体制を整えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修等で身体拘束に関しては十分配慮されているが、やむを得ず身体拘束が必要な場合には口頭での説明のみとなっている。身体拘束に関わる説明資料や同意書がなく、拘束廃止への対策が十分とはいえない。	身体拘束に繋がるケア内容には、文書での説明、同意を得るとともに、拘束の廃止に向けた検討会、ケアプランの内容変更等により、身体拘束をしない取り組みを進められることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めている。入居者の行動を見守り、必要な時は付き添い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度を利用しておられた事もあり、司法書士の方に制度について学ぶ機会をもち、家族にも話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っているつもりではあるが、不十分な点、疑問点はその都度尋ねてもらえるように、話しやすい関係を保っていけるように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一回の家族会を計画してきたが参加者が少ない為、次回からはそれぞれの家族に都合が付く日を聞き、一家族ごとにホームでの様子やケアプラン、ホームの考え方をゆっくり話しあえる時間を作ろうと考えている。	家族の面会時に日頃の状況なども伝え、意見交換が行われている。改善等については代表者も含め、職員での話し合いにより対策を考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見などがあった時は、随時聞くように心がけ、管理者や職員全体で話し合い協議していくようにしている。	職員の全体会議、毎朝のミーティングにより意見を随時引き出すことが出来ている。意見については協議を行い、現場に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがいろんな研修に出来るだけ参加できるように計画したり、それぞれの希望に出来るだけ合わせた勤務を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろんな種類の研修に参加されるように勤務表に入れたり、希望があった研修には出来るだけ参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会(鹿島、太良、塩田)5箇所集まり、月一回いろんな勉強会をしたり、それぞれの入居者と運動会をしたりと、毎年事務局を交替し、取り組みたい内容を話し合いで決めて実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から今までの生活歴、性格、趣味など出来るだけ多くの情報を聞き、現在困っていること、不安なこと、要望を聴き職員と話し合いながら安心した生活を送られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から今までの状況や、これからの要望などを聴き、ホームとしての説明もし、信頼していただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言動や行動に見極めが難しいと思われることに対しては、家族へ確認したり、全体ミーティングなどを利用して、協議支援の方向性に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	高齢だったり、体も思うように動けなかったりと、ついお客様にしてしまっているが、出来ることを少しずつしてもらい、職員は黒子になり共に生活する場にするにはどうしたらいいか思案中である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が職員に言えず家族に話したり、家族に言えないことを職員に話したりされ、家族の面会時や電話で情報交換し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来安いようにしたり、本人が電話をかけやすいようにしたり、会いたい人に時々会えるように配慮し、本人の気持ちに寄り添い支援に努めている。	入居者より、馴染みの方へ電話をかけられたり、関係継続を支援している。また、外出にも本人の気持ちに寄り添い、馴染みの場所に行く等の取り組みがなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格などを考慮し、食堂のテーブルの位置を変えたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が移動されたところへ面会に行くとしても喜ばれた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を出来るだけ聴くようにし、生活しやすいように努めている。	入居者との会話の中から意向をくみ取り、申し送りにより職員が共通に把握し、対応を検討している。言葉だけでなく、表情や態度でも読み取ることに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生い立ちを家族に記録してもらい、性格などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な方にはマッサージを、介助が二人必要であれば二人で介助したりと、その方の状態を考え対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合い、家族の意見も聴きながら計画を作成している。	入居者や家族からの意向、スタッフからの意見を反映して計画作成に取り組まれている。担当者会議の記録は別のノートへ記載されており、個別化されていない。モニタリングや評価、新しいプラン作成への流れが分かりにくくなっている。	ケアプラン作成毎に、サービス担当者会議録を個別に作成し、モニタリング・評価、プラン作成の流れが、分かりやすくなるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	もっと柔軟に多機能化に取り組んでいければ、一人ひとりが今よりもっと充実し楽しく生活出来ると思うが、日中3人の職員では難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの小学4年生がレクを持ってホームへ来られたり、運営推進会議のメンバーの一人がカラオケ同好会の方と共にホームでカラオケを楽しんだり、落語会や避難訓練の時には隣保班の方に参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、家族に説明し、かかりつけの病院へ定期受診を依頼し、緊急止むを得ない場合は職員が付き添い受診している。	各々のかかりつけ医へ、家族対応での定期受診をお願いしているが、できない場合にはスタッフが対応している。受診状況は適切に家族に伝えている。また、夜間や緊急時も医療機関との連携体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合面会に行き、病状を尋ねたり、家族が出来ない時は必要な物をそろえたり、洗濯物を交換したりと本人や家族と相談しながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や面会時に看取りのあり方について今後も十分話し合っていきたい。	入居時やその時の状況により、いつでも説明が出来る様に文書を整え、方針を説明している。重度化した場合は、随時主治医と家族と協議し、方針を共有し取り組んでいる。また、スタッフにも随時、勉強会等を行い、不安なくケアが行えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、AEDを使用した訓練を消防署より指導を要請し実施する予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災、水害等を想定した訓練を隣保班の方や、消防団の協力をお願いし実施している。	3ヶ月に1回、地域で予想される災害を想定して防災訓練を行っている。訓練の際には地域の方の協力も得て行っている。また、災害時の避難経路確認、緊急放送等の外部スピーカーなども整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人ひとりの性格を把握し、その人のその時々のお気持ちに寄り添った対応を心がけている。	声かけは、そばに寄り添い話す様に心掛けられている。排泄の失敗など、直接表現しにくい場面でも、プライバシーに気をつけながら対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを大切に、何かしてもらった時には感謝のお気持ちを出しながら、信頼関係をつくり、自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調の変化等をみながら、本人の意思を尊重した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は必ず化粧をしておられたが今はされず出かける時など化粧されるように言葉かけする。枕元のくしと鏡で身支度をし食堂へ来られる。ピクニックの時などスカーフなどでおしゃれをして出かけられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々料理の下ごしらえやつぎわけなどを職員と共にし、食器拭きを楽しく会話をしながら行えるよう支援をしている。	食材を見て、その日に献立を立てられている。食べたいものの希望を受け入れ、献立に取り入れる。ピクニックやバスハイクで、外食なども行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ残しがないように食べやすく工夫をしたり、水分量が少ない方には好みの飲み物を準備したり、夜間も飲みたい時に自由に飲まれるように、湯さましをペットボトルに入れ準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自力で口腔ケアされる方や介助が必要な方それぞれに言葉かけをし清潔保持に努めている。今後協力歯科医に一人ひとり年に一回でも口腔内の状態を診てもらい、それぞれに必要なケアを聴き清潔保持に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄に合わせ、見守りや言葉をかけながら介助している。夜間トイレにおられる時間が長いため、トイレヒーターを置く。	排泄がほぼ自立されている方が多く、一人ひとりの排泄に合わせた介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	畑でとれた野菜など常に野菜を多く使用している。体操をしたり、かかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて、職員と話しながらくつくりと入浴できるように支援している。入浴を嫌がる方は無理せずタイミングを見ながら介助している。	入居者個々のタイミングで職員と話しながらくつくりと入浴できるように対応される。嫌がる方には無理をせず、入れる時にいつでも対応できる様に準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や夜は一人ひとり休みたい時に休まれ、足が冷えて眠れないと言われる方には、湯たぽんを準備したり安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用をすぐに調べられるようにしており、症状の変化にいち早く気付くことが大事であると職員皆が認識している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書や生け花、カラオケなどそれぞれに好きな事が出来るように設定している。会いたい人のところへ出かけたり、会ってもらえるようにしていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回ピクニックを計画し、その日は職員の人数を増やし出かけているが、一人ひとり会いたい人のところへ出かけて会えるように支援していきたい。	月に1回は車で外出行事があり、思い出の場所や、片道1時間程度の場所まで、行き先を幅広く設定されている。日常的な散歩や車で外出したり、希望に沿った対応ができています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金やさいふをなくしたと言われる方は、預かり時々見てもらい安心しておられる。自分でいくら持っている方もおられ家族も承知されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもしたい時にされるように支援している。手紙やはがきでも出したらと準備はするがまだ出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れた飾りなどをし、居心地よく過ごされるように配慮している。浴室にのれんをかけたりともっと入りやすい雰囲気を作っていきたい。	温度計や湿度計を用意し、トイレには暖房を設置し急激な温度差がないように配慮されている。建物の四方に窓があり、風通しがよく清々しい。昔の建物を意識した装飾や生花などで落ち着いた雰囲気を作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の途中の「ばんこ」に座り気の合った利用者同士で話が弾んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってきていただき、本人が居心地よく過ごせるように工夫し支援している。	個人の書道作品を装丁し、華やかに展示され、いつでも作品を眺めて過ごすことが出来る。個々の使い慣れた家具を持ち込まれ、本人に合わせた居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレまでのテスリをつけ、居室の掃除をされる方の居室にはほうきを置き、毎朝掃除をされる。		